COVID-19時代の

吸入指導 New normal

医療の最前線で勤務する薬剤師は、常にSARS-CoV-2に感染するリスクにさらされている。特に、吸入手技指導の場面は、対象患者からのエアロゾル発生が想定され、感染リスクは相対的に高いと理解される。ゆえに、近日はこうした感染リスクを伴う吸入手技指導を避ける動きが出始めている。

しかし、吸入療法の成否を握るカギは、薬剤師による吸入手技指導にある。吸入手技指導の回避は、当該患者の吸入療法の失敗に帰結しうる。そこで今回、SARS-CoV-2感染リスクの軽減と理想的な吸入手技指導を、いかに両立させていくべきかを具体的に考察してみたい。

以下、実際の患者さんの薬局受診状況に合わせた流れを再現した。

薬局の出入り

来局する患者さんへ 注意事項を掲示

掲示したい項目

薬局の感染対策:考えや実施事項、ならびに来局者への協力依頼事項。

- 1. マスクの着用
- 2. 入店時の手指消毒
- 3. 対人距離を1~2mあける
- 4. 入店禁止事項
 - ●COVID-19疑い (濃厚接触者ならびに医師の診断を 受けていない咳・発熱症状ある方)
 - ●混雑時の入店者数制限





薬局カウンター

窓:開放



カウンターの環境を整備

- 1. ペンなど文具を共有しない
- 2. アクリル板などで遮蔽(上部まで)
- 3. 換気しやすい場所(窓の側など) サーキュレーターで換気口(窓や換気扇) に向けた空気の流れを作るのも一考
- 4. 患者毎、カウンターをアルコール消毒

指導している近くで、 他の患者さんを 待たせない



吸入手技指導1:手技説明・実演



1. 説明用紙を用いて、吸入手技を実演 (患者も説明者も重要ポイントを共有できる)



手技説明用紙

北埼玉吸入療法会の ホームページに 各種デバイスあり

- ●北埼玉吸入療法連携会 http://kumagaya-ph.or.jp/renkei/main.html
- 2. 薬剤師の実演は、オンライン動画に とって代えることも一考。 (薬剤師がマスクを外さなくて済む)

<吸入手技動画サイト>

- ●環境再生保全機構 https://www.erca.go.jp/yobou/zensoku/basic/adult/control/inhalers/method01.html
- ●各製薬メーカーのサイト

吸入手技指導2:患者手技確認



- 1. 吸入後の息止め (5秒くらい) の際に、マスクを着用してから呼出してもらう。 (顎マスクにしておいて、呼出のタイミングで引き上げるとやりやすい?)
- 2. 上記無理ならば、洋服の袖口で、<u>ハンカチ</u>で、口元を塞いで呼出してもらう (<u>使い捨てガーゼ</u>を準備するのも一考)

吸入手技指導の一番のポイントは、「患者さんにさせてみせて、手技の習得と誤操作の有無を確認する」ことにあります。薬剤師の説明は、実演をデジテルデバイスに変更することも一考でしょう。しかし、患者の吸入手技の確認は、実際にアナログで確認するほかありません。

指導する薬剤師の立場からの感染リスクは、患者さんが呼出する飛沫にあります。「飛沫が拡散しない工夫」「拡散した飛沫がすみやかに換気される工夫」を、その薬局の実情に応じて検討する必要があります。

薬剤師の安全を最大限に確保しながら、実効性のある吸入指導、まさに「吸入指導のNew normal」をいかに確立するか?今回、我々がお示ししたものはバージョン1です。皆様のアイディアをいただいてさらにブラッシュアップしていきたく考えております。是非、皆様のご意見を北埼玉吸入療法連携会までお寄せください。